

# 教育の窓



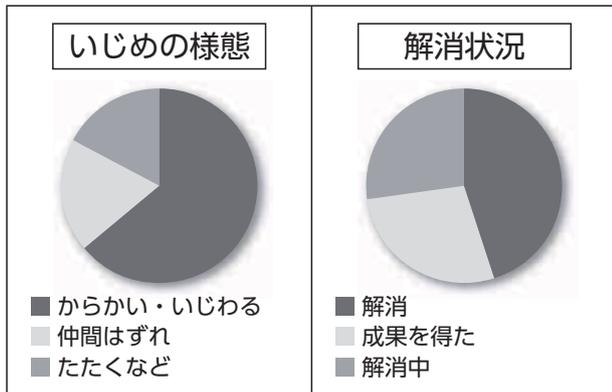
## いじめを許さない学校・八百津をめざして

いじめは児童生徒が一定の人間関係のあるものから、心理的・物理的攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているものと定義されています。学校では「いじめはどの子どもにもどの学校においても起こりうるものである」と認識し厳しく対応しています。

八百津町立学校における4月～7月までに認知したいじめの件数は、小学校5件、中学校6件となっています。可茂管内では118件と報告されています。

主なものはからかいやいじわるです。

いじめ発見のきっかけは教職員の発見が4件、本人の訴えが3件、保護者からの相談が3件となっています。学校と保護者が協力し、解消に向けて努め成果を上げています。



## 学校では日常的にいじめ防止の取組をしています

### 1 魅力ある授業・学級・学校づくり

- ☆わかる・できる・楽しい思いが持てる授業や学級
- ☆児童会・生徒会活動など自発性、自治力の育成

### 2 人権の町八百津 生命や人権を大切にす指導

- ☆道徳、学級活動で具体的な実践を推進
- ☆発達や障がいへの理解を深める指導
- ☆教職員の人権感覚を高める取組

### 3 全ての教育活動を通した指導

- ☆自己指導能力を高める指導
- ☆自己肯定感を高める指導
- ☆ネットやメール等にかかる情報モラルの研修
- ☆教職員の研修

### 4 中学校に教育相談支援員を配置し効果を上げています。

## 学校における取組の実際

- ・教職員間で共通理解を図る会議や研修を行う。
- ・道徳や学級活動の時間で問題を取り上げる。
- ・カウンセラー、相談員、養護など積極的に活用
- ・教育相談週間等を設ける
- ・PTA等関係団体とも協力する機会を設ける

## 保護者のための「いじめ兆候チェックポイント」

- 元気がなくなり□数も少なくなった。
- 学校へ行きたくないと言い出すことが増えてきた。
- 食欲がだんだんなくなってきた。
- 起床時、登校時体調の悪さの訴えがたびたびある。
- 学校から帰ってきたときの表情が暗くなった。
- 部屋に閉じこもり話をしなくなってきた。
- 学校や友達の話をすることが少なくなってきた。
- 衣服の汚れ、けがをして帰宅することがよくある。
- 持ち物がなくなることがよくある。
- 不要な電話がかかり、大人がでると切れてしまうことがある
- 家庭から金品をたびたび持ち出すことがある。

## 自己肯定感が持てる子に育てましょう



自己肯定感が持てると、他の人への思いやりが生まれるといわれています。他人を尊重する気持ちがあればいじめは生まれにくいでしょう。

乳幼児期・幼少期から自己肯定感を育てましょう  
☆この時期に親（保護者）が有りのままの子を受け入れることで自己肯定感の芽が大きく育ちます。親・家庭の愛情が最も大切です。